



TV TOKYO Corporation



GAIA NO YOAKE

日経スペシャル・
ガイアの夜明け



POCKET MONSTERS AG

ポケットモンスター アドバンスジェネレーション

© Nintendo • Creatures • GAME FREAK • TV Tokyo • ShoPro • JR Kikaku
© Pokémon



NANDEMO KANTEIDAN

開運！なんでも鑑定団

BUSINESS REPORT

第35期事業報告書

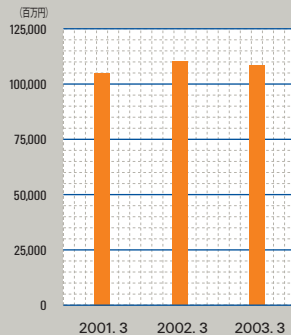
2002年4月1日 ▶ 2003年3月31日

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHT

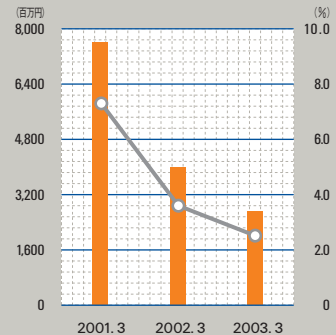
財務ハイライト（連結）

CONTENTS

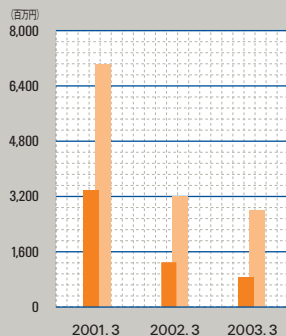
- 01 財務ハイライト(連結)
- 02 株主の皆さまへ
- 05 放送事業(単体)
- 11 その他事業(単体)
- 13 財務諸表(連結)
- 16 財務諸表(単体)
- 17 インフォメーション



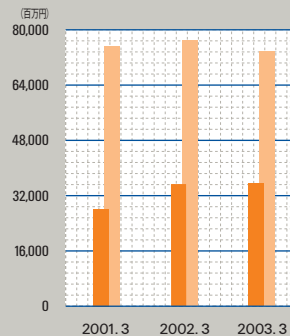
>> ■ 売上高



>> ■ 営業利益
● 売上高営業利益率



>> ■ 経常利益
■ 当期純利益



>> ■ 総資産
■ 株主資本

株主の皆さまへ

体質改革を断行し、企業価値を高める チェンジとチャレンジを重視



当期の市場環境

当期の日本経済は、期初こそ持ち直しの兆しがあったものの、デフレ傾向に歯止めがかからず、株安や米国経済の減速などから景況感は悪化の一途をたどりました。期末にかけてはイラク戦争の影響もあり、景気はさらに冷え込みました。株価はこの一年間で日経平均株価が27%と前期に続いて大きく落ち込み、これが企業活動や個人消費を萎縮させ、株式の評価損が企業業績にも打撃を与えました。

企業が広告費を抑制する動きが広がった結果、「2002FIFAワールドカップTM」の開催という大きなイベントがあったものの、2002年の日本の広告費(電通調べ)は5兆7,032億円(前期比5.9%減)にとどまり、テレビ広告費も2兆円を下回る1兆9,351億円(同6.4%減)と、いずれも2年連続で減少しました。特に景気動向に敏感なスポット広告は、大きく落ち込みました。

当期の業績と経営施策

こうした中で、当期の売上高(連結)は、1,082億82百万円(前

期比1.8%減)[単体:972億99百万円/前期比3.7%減]となりました。また、営業利益(連結)は、27億10百万円(同32.3%減)[単体:18億21百万円/同30.4%減]、経常利益(連結)は、27億96百万円(同12.3%減)[単体:23億99百万円/同14.8%減]、当期純利益(連結)は、8億65百万円(同33.5%減)[単体:6億63百万円/同49.8%減]となりました。

当社は当期において、営業強化やコスト削減に努めたのはもちろん、中長期的な経営効率の向上や企業体質の強化のために以下の様々な施策に取り組みました。

(1)番組編成では制作費の「選択と集中」を積極的に進め、番組のスクラップ&ビルドを実施しました。経済ドキュメンタリー「日経スペシャル・ガイアの夜明け」と「ワールドビジネスサテライト(WBS)土曜版」を新たにスタートし、経済番組を一段と充実させるとともに、土曜午前帯にアニメ番組を集中編成するなど、特色を打ち出しました。さらに2003年4月編成では、ゴールデンタイム(GH)で12年ぶりに30%を超える大改編を行いました。



(2)番組コンテンツのマルチユースに適した、全社的な番組関連情報の充実と共有化を進めるため、「番組総合情報システム」を稼働し、その拡充を推進しました。

(3)グループ内の資金の調達・運用を当社に一本化し、グループ全体としての経営効率を高めるCMS(キャッシュ・マネジメント・システム)導入の体制を整えるなど連結経営を進め、決算についても当期から連結ベースでの決算報告・開示をすることとしました。

(4)社外監査役を増員し、初めて日経グループ外から監査役を招聘したほか、コーポレートガバナンス、コンプライアンスの強化のために取締役会、社員に対する啓蒙活動を展開しました。

■ 新中期3ヵ年計画

2003年4月から新たな中期3ヵ年計画をスタートさせました。経営計画大綱では「ゼロからの再構築」を目指して、実行すべき施策を4つの経営方針にまとめました。

■ 経営方針

1. 企業競争力、業績の向上に向け、収支構造を中心とした体質改革を断行し、企業価値を高める。
2. 経営資源を得意分野に重点投下し、規模は小さくとも最良・最強のキー局となる。
3. 「個性」「クオリティ」「パワー」のあるコンテンツの自主企画・製作力を強化し、マルチユース型映像集団を目指す。
4. より高いパフォーマンスを実現する組織・人事制度を確立し、創造的な人材を育成する。

最重要テーマは、「体質改革を断行し、企業価値を高める」ことにあります。それが「最良・最強のキー局」になる条件です。売上高営業利益率5%の早期達成を目標に掲げ、企業価値を生み出す具体的な施策を、速やかにスタートさせます。「個性」「クオリティ」「パワー」のある番組コンテンツの編成・製作に意欲的に取り組みます。達成視聴率は、2004年3月期は改めてGH(19-22時)9.0%、全日(6-24時)4.0%を目指します。いわゆる「三ナイ番組」はさらに見直し、番組改編を4月以降も加速し、継続します。

営業面での最大の課題はスポット収入の拡大です。当社はタイム中心の収入構造となっていますが、経営効率の向上のためにスポットの拡大も必要と考えており、営業体制の見直しや広告需要の大きい若者層をターゲットとする番組開発を進めます。

ライツ事業は、放送事業に次ぐ中核事業であり、アニメを中心にその拡充は当社の利益重視経営に必要不可欠です。自主企画によって、ハンドリング権を持ち、放送とライツのシナジー効果を生む収益力も高い番組コンテンツの開発を、最優先の課題として取り組みます。そのために2003年7月に改組するコンテンツ事業部門や編成・製作部門を中心に、ライツ事業をさらに拡大していきます。

当社の組織・人事制度は改革の過程にあります。製作部門に人材を重点投入するとともに、少数精鋭の体制を維持しつつ、優秀な人材、意欲的な社員を伸ばす能力主義を取り入れていきます。

チェンジとチャレンジを重視

民放テレビ業界を取り巻く環境は大きく変化しています。デジタル・多メディア・多チャンネルの時代を迎え、本年12月にはいよいよ地上デジタル放送が始まります。当社はデジタル化を着実に推進するとともに、BS放送、CS放送、ブロードバンドなどの新しいメディアにも番組コンテンツを配信していく、マルチユース型映像集団への業態変革を進めます。

テレビ東京の業務遂行の基本は「4つのC」です。取り巻く環境の荒波を乗り越え、体質改革を断行するには、「コミュニケーション」「チェンジ」「コンフィデンス」「チャレンジ」の中で、とりわけ「チェンジ」と「チャレンジ」が重要だと考えています。従来のやり方にとらわれず、創意工夫で自己変革し、目標達成に積極果敢に挑戦します。

株主の皆さまには、今後とも一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

2003年6月25日

代表取締役社長

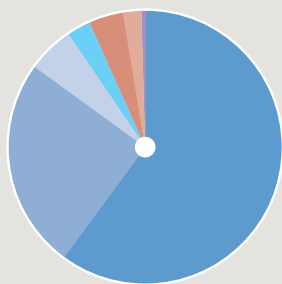
菅谷定孝

AT A GLANCE

売上高の内訳

科目	前事業年度 自2001年4月1日 至2002年3月31日		当事業年度 自2002年4月1日 至2003年3月31日		対前年度 増減率 (%)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
タイム収入	56,515	55.9	58,451	60.1	3.4
スポット収入	25,817	25.6	24,245	24.9	-6.1
小計	82,332	81.5	82,696	85.0	0.4
番組販売収入	5,589	5.5	5,365	5.5	-4.0
BS収入	4,922	4.9	2,712	2.8	-44.9
放送事業収入合計	92,844	91.9	90,774	93.3	-2.2
ソフトライツ収入	6,211	6.1	3,974	4.1	-36.0
イベント収入	1,833	1.8	2,343	2.4	27.9
その他収入	185	0.2	207	0.2	11.6
その他事業収入合計	8,230	8.1	6,525	6.7	-20.7
合計	101,075	100.0	97,299	100.0	-3.7

>> 売上高構成比



- タイム収入 (60.1%)
- スポット収入 (24.9%)
- 番組販売収入 (5.5%)
- BS収入 (2.8%)
- ソフトライツ収入 (4.1%)
- イベント収入 (2.4%)
- その他収入 (0.2%)

NON-CONSOLIDATED REVIEW OF OPERATIONS

放送事業 (単体)

収入の状況

■ タイム

タイム収入は、584億51百万円(前期比3.4%増)と、広告市場が全般に伸び悩む中で、過去最高の売上を計上しました。レギュラー番組では、「開運!なんでも鑑定団」や「出沒!アド街ック天国」など既存番組が引き続き好調で、週30本以上を放送し業界ナンバー1を誇る安定したアニメ番組、視聴ターゲットが明確な趣味・文化教養番組、さらに新番組「ガイアの夜明け」や「WBS土曜版」が加わったことで、多様な広告需要に応える編成が充実し、511億97百万円(同2.0%増)を売り上げました。特別番組では、6月開催の「2002FIFAワールドカップTM」が前期の「ソルトレーク冬季五輪」の売り上げを大幅に上回り、恒例の新春ワイド時代劇やプロゴルフトーナメント、官公庁広報番組なども手堅くセールスができ、72億54百万円(同14.4%増)となりました。

■ スポット

スポット収入は、景気動向がより敏感に影響するため、2001年8月から2002年11月まで連続16ヶ月間前年割れとなりました。企業のスポット予算の一部が、ワールドカップサッカーに振り替えられたことも影響しました。2002年10月クールから回復の兆しが見られ、2003年2月・3月に急回復をしたものの、年間では、242億45百万円(前期比6.1%減)に低迷しました。業種別では、デジタル家電や情報機器を中心に「電気機器」「精密事務機器」、自動車を中心とした「輸送機器」が堅調でした。当社がこれまで比較的弱かった「化粧品・洗剤」では、営業努力が実り、出稿を伸ばすことができました。一方、通信や外食などの「サービス・娯楽」が落ち込み、発泡酒競争の沈静化などにより「食品・飲料」「薬品」などが伸び悩みました。

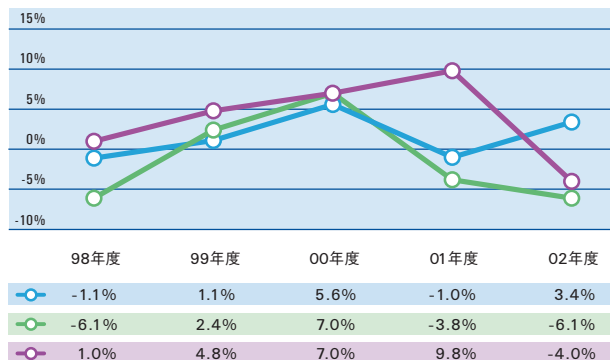
タイム・スポット合計では826億96百万円となり、前期比0.4%増を記録しました。

>> 業種別タイム・スポット合計CM出稿量 (15秒換算GRP)

業種	5局計(千%)	構成比(%)	当社シェア(%)
基礎材	104	0.9	14.3
食品・飲料	2,563	23.1	10.2
薬品	980	8.8	5.5
化粧品・洗剤	1,303	11.7	4.6
衣料・身の回り品	208	1.9	8.4
出版	374	3.4	15.8
一般産業機器	18	0.2	22.2
精密事務機器	477	4.3	11.7
電気機器	601	5.4	8.5
輸送機器	849	7.7	8.8
家庭用品・機器	456	4.1	20.1
住宅・建材	318	2.9	11.3
卸売・百貨店	496	4.5	12.2
金融・保険業	840	7.6	9.0
サービス・娯楽	1,183	10.7	11.4
その他	323	2.9	9.0
合計	11,093	100	9.7

備考：データはビデオリサーチ調査。関東地区アクチュアル視聴率で集計。出稿額ベースではありません。

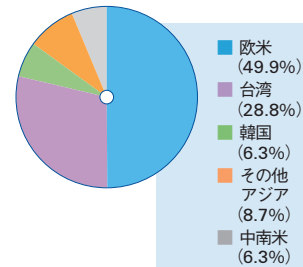
>> ○タイム ○スポット ○番組販売 収入の対前年伸び率推移



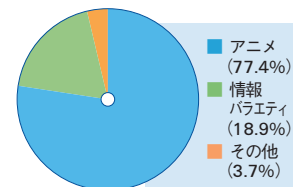
■ 番組販売

番組販売(番販)収入は、53億65百万円(前期比4.0%減)にとどまりました。景気の低迷に加え、地上デジタル放送時代に向けての地方ローカル局のコスト削減やローカル局同士の提携などが本格化し、売り上げの7割強を占める国内番販(地上波)は横ばいの状況で、これに対応し、アニメ番組を中心に、欧米への海外番販に注力し、売り上げを拡大しました。「遊戯王デュエルモンスターズ」や「シャーマンキング」など、放送事業とライセンスを絡めたシナジー効果が牽引力となっています。アニメは、国内の衛星放送向けの主力商品にもなっています。

>> 海外番販の地域別構成比



>> 海外番販のジャンル別構成比



■ BS

当社は、BSジャパンと業務提携を結び、番組を供給し、それらのタイムCM枠の一部において、広告セールスを展開しています。BSジャパンの総視聴可能世帯数は、2003年3月末現在で379万世帯と伸びましたが、広告媒体としての市場評価は限定的でした。この結果、BS収入は、27億12百万円(前期比44.9%減)になりました。

放送事業（単体）

2002年度の番組編成と視聴率

当社は、地上波編成・製作を番組コンテンツの中核と位置付け、BS放送、CS放送、ビデオ・DVD、ブロードバンドなどの、各メディアの特性と事業性を活かすために、最も効率・効果的で且つ総合的なメディア戦略とコンテンツ戦略を展開しています。こうした観点から、「個性」と「クオリティ」「パワー」を番組指針に掲げ、番組価値・営業収益の指標となる達成視聴率の実現に向け、2003年3月期は、(1)他局との差別化、(2)全日視聴率の向上、(3)既存番組の総点検、の3つの課題に取り組みました。

2002年4月編成では、“経済のテレビ東京”をリードする「ワールドビジネスサテライト」(WBS)を5分拡大し、また「ガイアの夜明け」をスタートさせました。スポーツニュースと「Gパラダイス」は統合し新番組「スポバラ」に改め、公立小中学校の完全週休2日制実施に即応して、土曜午前にアニメゾーンを新設し5本の新作を導入しました。“アニメのテレビ東京”のブランド強化と全日視聴率の向上がねらいです。得意の情報バラエティ番組では、ファミリー向け

に「日曜ビッグバラエティ」を、若者文化の発信地として「ハマラジャ」、さらに個性ある新しいジャンルの開発を目指す「爆笑問題の開け!記憶の扉」や「カヴァーしようよ」を誕生させました。

10月編成では、経済番組の一層の拡充を進める「WBS土曜版」を開始しました。アニメでは、ライツ事業の強化を図る「NARUTO」や「ポケットモンスター アドバンスジェネレーション」など8本を新たに導入しました。情報バラエティ分野では、前代未聞の世直し番組と銘打った「ジカダンバン!責任者出てこい!」、若者ターゲットでは「ハマラジャ」に替え「WINNERS」を編成しました。

総じて、新しいバラエティ番組はねらい通りの視聴者獲得に至りませんでした。しかし、「開運!なんでも鑑定団」や「女と愛とミステリー」「いい旅・夢気分」「土曜スペシャル」「ペット大集合!ポチたま」「debuya」など既存番組が堅調な視聴率を持続しました。定評ある経済番組とアニメにおいては、さらなる個性化とクオリティの充実が図られました。また、特別番組では、「2002FIFAワールドカップ



★ 女と愛とミステリー
毎週 水曜
20:54~22:48

人気作家の原作を基に、豪華キャストで贈る2時間ドラマ。当期平均視聴率は10.7%を記録。



★ 出没! アド街ック天国
毎週 土曜
21:00~21:54

30・40代に人気の地域密着系都市型エンターテインメント。当期最高視聴率は「厚木」で13.8%。



★ ワールドビジネスサテライト
毎週 月曜~金曜
23:00~23:55

1988年4月に放送開始、ビジネスman層に人気と信頼が定着。02年10月から土曜版も始動。



★ 2002FIFAワールドカップTM
2002年6月8日 土曜
17:40~20:10

当社は一次リーグ2試合を全国中継。イタリア対クロアチア戦は16.0%の高視聴率を獲得。

ブTM」「新春ワイド時代劇 忠臣蔵～決断の時」「2002シカゴマラソン」などが高視聴率を獲得しました。

こうした結果、年間視聴率は、ゴールデンタイム(GH 19-22時)8.0%、プライムタイム(PT 19-23時)7.3%、全日(6-24時)3.6%となりました。占拠率(シェア)では、GHで10.2%を確保し、PT 9.5%、全日7.4%となりました。

■ 番組表彰

当期において、「美の巨人たちスペシャル 横山大観“生々流転”」は、放送批評懇談会が主催する第40回ギャラクシー賞選奨と全日本テレビ番組製作者連盟主催のATP賞2003の情報・バラエティ部門優秀賞を獲得しました。WBSの人気コーナー「トレンドたまご」は、平成14年日本民間放送連盟賞・放送活動部門に入選しました。また、「ガイアの夜明け」は、卓越したカメラワークにより、日本映画テレビ技術協会の2002年度映像技術奨励賞を受けました。



★ 新春ワイド時代劇 忠臣蔵～決断の時
2003年1月2日 木曜
14:00～23:55

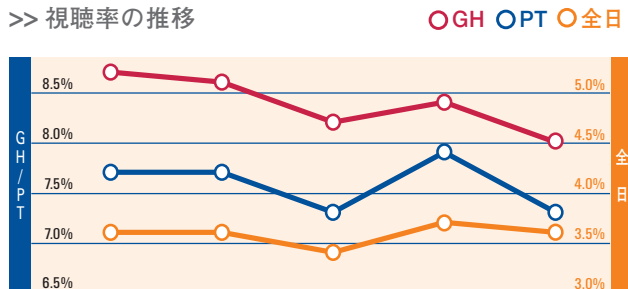
中村吉右衛門、黒木瞳ら豪華キャストによる忠臣蔵。番組平均視聴率12.6%を獲得。



★ 男はつらいよ 寅次郎わが道をゆく
2002年8月26日 月曜
21:00～22:48

シリーズ全48作のうち、当期は第16作から31作を放送し、最高視聴率は第21作の12.7%。

>> 視聴率の推移



	98年度	99年度	00年度	01年度	02年度
GH	8.7%	8.6%	8.2%	8.4%	8.0%
PT	7.7%	7.7%	7.3%	7.9%	7.3%
全日	3.6%	3.6%	3.4%	3.7%	3.6%

>> 高視聴率番組

■ レギュラー番組

	放送日	時間	視聴率 (%)	TXN視聴世帯数 (千)
1 開運!なんでも鑑定団	03.2.11	火 20:54～	16.5	5,330
2 女と愛とミステリー(*)	02.8.21	水 20:54～	15.5	4,566
3 いい旅・夢気分	02.11.13	水 20:00～	14.8	3,969
4 土曜スペシャル	03.2.8	土 19:00～	14.0	3,945
5 出発!アド街ック天国	03.3.1	土 21:00～	13.8	2,845

■ 特別番組

	放送日	時間	視聴率 (%)	TXN視聴世帯数 (千)
1 2002FIFAワールドカップTM (イタリア対クロアチア)	02.6.8	土 17:40～	16.0	4,624
2 新春ワイド時代劇 忠臣蔵 (第四部)	03.1.2	木 20:55～	15.9	4,858
3 2002シカゴマラソン	02.10.13	日 21:20～	15.3	4,070
4 2002FIFAワールドカップTM (チュニジア対ベルギー)	02.6.10	月 17:40～	14.2	3,996
5 男はつらいよ 寅次郎わが道をゆく	02.8.26	月 21:00～	12.7	3,174

備考：データはビデオリサーチ調査。「視聴率」は関東地区世帯視聴率。レギュラー番組は番組ごとの年度最高視聴率で比較。「TXN視聴世帯数」はTXN 6局の各毎分平均視聴世帯数の合計で推計。

(*) 02.11.20にも15.5%を獲得。

放送事業（単体）



★ 産直限定! 通販バトル
毎週 火曜
20:00~20:54

日本全国から選りすぐられた逸品の通販権をかけて対決。視聴者の“買いたいコール”が勝敗を決める。



★ 最高! ブギウギナイト
毎週 金曜
21:00~21:54

80年代から最新の洋・邦楽ヒット曲をディスコ調にアレンジし、様々なジャンルのゲストたちを迎え、歌って踊って大熱演。



©榎本学ヴ/小学館・Sho Pro・TV東京

★ コロッケ!
毎週 月曜
18:30~19:00

小学館「コロコロコミック」の人気連載をアニメ化。どんな願いごとも叶う「禁貨」を求めて旅する少年コロッケの冒険とサバイバル。

2003年4月の番組編成

2003年4月編成は、経営資源をさらに有効活用し、「三ナイ番組」（コンセプトが明確でナイ、視聴率がとれナイ、スポンサーが付かナイ）の見直しをスローガンに、番組のスクラップ&ビルドを積極的に推進しました。その結果、番組改編率はGH30%、PT37%、全日28%と極めて大幅なものとなりました。

改編のポイントは、昨年度視聴率が低迷した曜日の抜本的見直しと、不透明な営業環境を鑑み“売れる番組の開発”としました。

具体的には、テレビ初の視聴者参加型通販エンターテインメントショー「産直限定! 通販バトル」、設計から家が建つまでを長期密着型取材により毎週一軒ずつ紹介する「完成! ドリームハウス」、さらにはブーム再来と言われるディスコシーンを先取りした「最高! ブギウギナイト」、旅人(芸能人)が田舎町を歩きアポ無しで宿泊所を

探すガチンコ旅番組「田舎に泊まろう!」です。どれも斬新な新企画となっています。

また当社の得意ジャンルであるアニメも「コロッケ!」「ソニックX」「人間交差点」など良質な作品を選りすぐって放送をスタートさせました。

さらに「ガイアの夜明け」「NARUTO」「たけしの誰でもピカソ」「日曜ビッグバラエティ」など、既にお馴染みの番組も視聴者習慣を考え、より多くの方にご覧いただける時間帯へ枠移動しました。

これら一連の改編により、2003年4月編成は視聴率面で確実に成果をあげはじめています。今後もこの勢いをさらに加速させ、“他局と明確に差別化した個性的且つ収益性の高い番組編成”を追求していきます。

C L O S E - U P

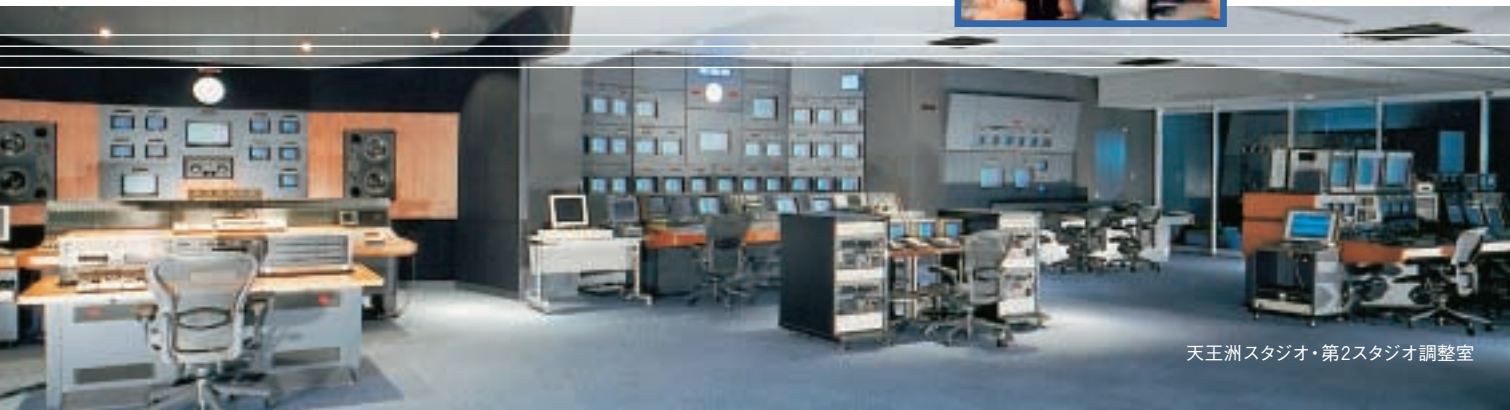
>>> 地上デジタル放送への取り組み

2003年12月にいよいよ地上デジタル放送が、関東・近畿・中京の3大都市圏で開始されます。当社は2003年4月にデジタル放送の予備免許を受け、現在本放送に向けて様々なテストを行っています。地上デジタル放送は、21世紀IT社会の中核を担うと期待されている事業であり、テレビ東京もいよいよその第1歩を踏み出します。当社は放送のデジタル化にあたり、送信関連・マスター送出関連・制作関連等の設備関係を中心に、総額でおよそ250億円の設備投資を行う計画です。そのうち一部は既に、マスター設備の全面更新や本社スタジオのHD化・天王洲スタジオ建設などで実施済みです。また今後は、現在、国が中心になって行っているアナアナ変更(アナログ周波数変更対策)の進捗に合わせて、中継局の建設とサービスエリアの段階的な拡大を行っていきます。2006年度を目途として、現在のアナログ放送とほぼ同じサービスエリアをカバーする予定です。

地上放送のデジタル化は、放送局に様々な新しい放送サービスの可能性をもたらします。番組のHD化・データ放送・複数チャンネル放送・携帯端末(電話)向け放送など、既存のアナログ放送では考えられなかったサービスが、地上デジタル放送では可能になります。当社は、関連のBSデジタル放送局であるBSジャパンへの番組供給で、既に一部の番組のHD化やデータ放送などの番組高機能化のノウハウを積み重ねており、今後もこうした新しい放送サービスに積極的に取り組み、新たな放送ビジネスの開拓にチャレンジしていきます。

また既存ビジネスとの関連では、2011年に予定されているアナログ放送停止までは、アナログ放送とデジタル放送のサイマル放送を行うことにより、アナログ放送の視聴者を保護し、既存の放送サービスへの影響を最小限に押さえるよう配慮していきます。

★ 地上デジタル放送では、16:9の高画質HDTV番組と常時アクセス可能なニュースや気象情報、地域情報などのデータ放送が行われます。



NON-CONSOLIDATED REVIEW OF OPERATIONS

その他事業（単体）

収入の状況

■ ソフトライツ

アニメを中心とするライツ事業と劇場公開映画事業によるソフトライツ収入は、合計で39億74百万円（前期比36.0%減）となりました。1997年4月に放送開始した「ポケットモンスター」は、テレビ・映画とも世界的な大ヒットとなり、マーチャンダイジング収益が急拡大したものの、2001年3月期をピークにブームが落ち着いたことが主要因です。当期は「遊戯王デュエルモンスターズ」「ヒカルの碁」「とっとこハム太郎」などが売りに貢献しました。公開時期と決算計上時期に1年ほどのタイムラグがある映画事業では、前期公開の洋画「アメリ」「ヤマカシ」、邦画「GO」などを当期に計上しました。当期公開作品では、夏興行の定番となった「ポケットモンスター」と冬の「とっとこハム太郎」に加え、洋画「アザーズ」、邦画「Dolls」などがヒットを記録しています。また2002年1月放送の「新春ワイド時代劇 壬生義士伝」の映画化も実現しました。



©河本リツ子/小学館・SMDE・テレビ東京
©とっとこハム太郎プロジェクト2002

★ 劇場版 とっとこハム太郎 ハムハムハムージャ! 幻のプリンセス

2002年12月14日
全国東宝系ロードショー
劇場版第二弾。「ゴジラ」との同時
上映で152万人を動員。興行収入は
17億4千万円を記録。



★ Dolls (ドールズ)

2002年10月12日
全国松竹系ロードショー
北野武監督作品。観客動員数は50
万人を突破。第59回ベネチア国際
映画祭正式出品作品。

©2002バンダイビジュアル・TOKYO FM・テレビ東京・オフィス北野

■ イベント

当期新たに日本経済新聞社と「古代エジプト展」「狩野探幽展」を共催し、それぞれ10万人規模での動員となりました。定評のあるミュージカル・演劇興行では、モーニング娘。の「モーニング・タウン」や松本幸四郎と松たか子の親子共演が話題となった「ラ・マンチャの男」などを上演し、オペラ・クラシック分野では、「ワシントンオペラ」や「ポーランド国立歌劇場」などの招聘興行を行いました。2002年10月オープンした多目的イベントスペース「SHIBUYA BOXX」の経営に共同出資者として参画しました。日韓共催により国民的行事となった「2002FIFAワールドカップTM」の影響が様々に懸念された当期のイベント業界でしたが、こうした積極的な事業展開をした結果、当社イベント収入は、23億43百万円（前期比27.9%増）となりました。有力パートナーとの関係強化も図り、来期からの開局40周年記念事業の準備を進めました。



★ モーニング・タウン

2002年5月24日～6月23日
青山劇場

モーニング娘。のミュージカル第二弾。特別ライブを加える構成で、41公演で約5万人を動員。



★ ラ・マンチャの男

2002年7月31日～8月30日
帝国劇場

松本幸四郎主演のロングラン・ミュージカル。今公演期間中に単独主演1000回を達成した。

C L O S E - U P

>>> テレビ東京のアニメビジネス

現在、地上波民放キー5局で放送されているテレビアニメ番組の約半数がテレビ東京で放送されています。

アニメは、テレビ放送の枠を超えて番組販売、ビデオグラム化、商品化、テレビゲーム化、映画化などすそ野の広い事業展開が行われているマルチユースビジネスの代表です。

■動き出した「NARUTO」ビジネス

集英社週刊少年ジャンプの人気マンガ「NARUTO」は、2002年10月から毎週木曜18時30分の放送枠でスタートしました。2003年4月からは、ゴールデンタイム(GH)の毎週水曜19時27分に移行して放送しています。

「NARUTO」は、当社が世界の全権利を取り扱う幹事社となってライツビジネス全体を主導的に推進しています。

TXNネットワークを含め国内地上波で27局、BS局のBSジャパン、CS局のAT-Xで放送しています。海外での番組販売は、世界各国に進出している「遊戯王デュエルモンスターズ」の実績を生かして、アジアを皮切りに欧米での放送を計画し、作業を進めています。

ライツ収入が期待できる商品化に関しては、ビデオ・DVD・CD、各種テレビゲームソフト、玩具・文房具・菓子など300アイテム以上の発売が予定されています。



©岸本斉史 スコット/集英社・テレビ東京・びえる

「NARUTO」とは

忍の里・木ノ葉隠れの里の少年・うずまきナルトは忍者学校(アカデミー)の超問題児。毎日いたずらばかりして、イルカ先生に怒られている。その上、学校では落ちこぼれで卒業もおぼつかない。だがナルトには、里の忍びの長(おさ)・火影(ほかげ)の名をついで、里一番の忍者になるという夢があった。

無事忍者学校の卒業を許されたナルトは、同じ生徒のうちはサスケ、春野サクラとともに、忍者としての第一歩を踏み出す!

●●●
NARUTO ホームページ
<http://www.tv-tokyo.co.jp/anime/naruto/>



●●●
NARUTO グッズねっと
<http://www.tv-tokyo.co.jp/anime/naruto/goods/>



CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

財務諸表（連結）

(単位：百万円)

■ 連結貸借対照表	前連結会計年度 (2002年3月31日現在)		当連結会計年度 (2003年3月31日現在)	
資産の部			負債の部	
流動資産	45,110	40,544	流動負債	21,048
現金及び預金	8,562	4,932	支払手形及び買掛金	6,285
受取手形及び売掛金	18,650	19,559	短期借入金	749
有価証券	648	—	1年以内返済長期借入金	3,369
たな卸資産	15,045	14,638	1年以内償還社債	—
繰延税金資産	657	647	未払法人税等	282
その他	1,625	819	未払費用	6,971
貸倒引当金	△ 78	△ 52	その他	3,391
			固定負債	19,778
固定資産	31,757	33,254	社債	9,000
有形固定資産	16,556	18,395	長期借入金	4,023
建物及び構築物	7,567	7,752	退職給付引当金	6,061
機械装置及び運搬具	4,036	3,437	役員退職慰労引当金	552
工具器具備品	383	316	その他	140
土地	4,368	4,368	負債合計	40,826
建設仮勘定	199	2,520	少数株主持分	
無形固定資産	108	395	少数株主持分	698
投資その他の資産	15,092	14,462	資本の部	
投資有価証券	8,425	7,059	資本金	6,784
長期貸付金	245	222	資本剰余金	5,343
繰延税金資産	2,516	3,067	利益剰余金	22,943
その他	3,950	4,237	その他有価証券評価差額金	256
貸倒引当金	△ 46	△ 124	為替換算調整勘定	14
			資本合計	35,343
資産合計	76,867	73,798	負債、少数株主持分及び資本合計	76,867

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

2. 資本の部の前連結会計年度の数値につきましては、当連結会計年度の区分に組み替えて表示しております。

(単位:百万円)

■ 連結損益計算書	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2001年4月1日 至 2002年3月31日)	(自 2002年4月1日 至 2003年3月31日)
売上高	110,315	108,282
売上原価	77,036	76,319
売上総利益	33,278	31,962
販売費及び一般管理費	29,276	29,251
人件費	7,545	7,094
退職給付費用	414	555
役員退職慰労引当金繰入額	142	158
代理店手数料	15,311	15,161
貸倒引当金繰入額	5	67
賃借料	1,124	1,221
減価償却費	216	183
その他	4,515	4,809
営業利益	4,002	2,710
営業外収益	575	593
営業外費用	1,389	507
経常利益	3,188	2,796
特別利益	36	119
特別損失	108	1,155
税金等調整前当期純利益	3,115	1,760
法人税、住民税及び事業税	1,739	1,369
法人税等調整額	115	△ 303
少数株主損失(加算)	40	171
当期純利益	1,300	865

売上高

売上高は、前期比1.8%減の1,082億82百万円と減収となりました。セグメント別では、地上波テレビ放送のタイムとスポット収入に、番組販売、BS収入を加えた「放送事業」の売上高が、前期比1.0%減の994億1百万円となりました。アニメ・著作権部門と映画投資部門によるソフトライツ収入とイベント収入を加えた「ライツ事業」において、売上高は前期比10.8%減の107億73百万円となりました。ポケモン関連収入の落ち込みを新しいアニメ作品によって補えなかったのが主要因です。

営業利益

レギュラー番組の制作費圧縮や経費節減等、コスト低減を図りましたが、売上高の減少を補えず、営業利益は前期比32.3%減の27億10百万円となりました。

経常利益

経常利益は、前期比12.3%減の27億96百万円となりました。営業利益の減少幅に比し、経常利益の減少幅は小さくなりました。これは、持分法投資損失が減少したためです。

当期純利益

特別損失に11億55百万円を計上しておりますが、これは投資有価証券等評価損を計上したことによります。これと税金費用を加味し、当期純利益は前期比33.5%減の8億65百万円となりました。

(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

財務諸表（連結）

(単位:百万円)

■ 連結剰余金計算書	前連結会計年度 (自 2001年4月1日 至 2002年3月31日)	当連結会計年度 (自 2002年4月1日 至 2003年3月31日)
	連結剰余金期首残高	20,993
連結剰余金増加高	1,002	—
連結剰余金減少高	353	—
配当金	230	—
役員賞与	123	—
当期純利益	1,300	—
連結剰余金期末残高	22,943	—
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	—	5,343
資本剰余金期末残高	—	5,343
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	—	22,943
利益剰余金増加高	—	865
当期純利益	—	865
利益剰余金減少高	—	348
配当金	—	265
役員賞与	—	82
利益剰余金期末残高	—	23,460

(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

(単位:百万円)

■ 連結キャッシュ・フロー計算書	前連結会計年度 (自 2001年4月1日 至 2002年3月31日)	当連結会計年度 (自 2002年4月1日 至 2003年3月31日)
	営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 44
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,729	△4,842
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,275	△3,282
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 43	23
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	2,457	△4,646
現金及び現金同等物の期首残高	6,711	9,168
現金及び現金同等物の期末残高	9,168	4,522

(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

— 営業活動によるキャッシュ・フロー —

営業活動による資金は34億54百万円の増加となりました。税金等調整前当期純利益は17億60百万円と前期比13億55百万円減少しましたが、減価償却費17億89百万円や投資有価証券評価損11億55百万円、退職給付引当金の増加分6億3百万円がキャッシュ・フロー上は外部流出となっていないこと、法人税等の支払額が少なかったこと(前期44億10百万円、当期9億64百万円)などによるものです。

— 投資活動によるキャッシュ・フロー —

投資活動による資金は48億42百万円の減少となりました。これは主に、地上波デジタル化に備えた有形固定資産の取得による支出などが36億8百万円あったことによるものです。

— 財務活動によるキャッシュ・フロー —

財務活動による資金は32億82百万円の減少となりました。子会社の増資により少数株主からの払込による収入が6億81百万円ありましたが、長期借入金の返済による支出が33億68百万円あったことによるものです。

— 現金及び現金同等物の期末残高

現金及び現金同等物の期末残高は45億22百万円となり、前期末と比して46億46百万円減少しました。営業活動によるキャッシュ・フローは増加したものの、それを上回る投資活動や財務活動によるキャッシュ・フローの減少があったことによるものです。

NON-CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

財務諸表（単体）

(単位：百万円)

■ 貸借対照表	前事業年度 (2002年3月31日現在)	当事業年度 (2003年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	36,863	33,068
固定資産	30,984	32,614
有形固定資産	15,973	17,804
無形固定資産	64	429
投資その他の資産	14,946	14,381
資産合計	67,847	65,683
負債の部		
流動負債	17,291	19,271
固定負債	18,992	14,829
負債合計	36,283	34,100
資本の部		
資本金	6,784	—
資本準備金	5,343	—
利益準備金	410	—
その他の剰余金	18,770	—
任意積立金	15,800	—
当期末処分利益	2,970	—
その他有価証券評価差額金	255	—
資本合計	31,564	—
資本金	—	6,784
資本剰余金	—	5,343
資本準備金	—	5,343
利益剰余金	—	19,531
利益準備金	—	410
任意積立金	—	16,700
当期末処分利益	—	2,421
その他有価証券評価差額金	—	△ 77
資本合計	—	31,582
負債及び資本合計	67,847	65,683

(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

(単位：百万円)

■ 損益計算書	前事業年度 (自 2001年4月1日 至 2002年3月31日)	当事業年度 (自 2002年4月1日 至 2003年3月31日)
売上高	101,075	97,299
売上原価	72,272	69,124
売上総利益	28,802	28,175
販売費及び一般管理費	26,184	26,354
営業利益	2,617	1,821
営業外収益	688	1,051
営業外費用	490	473
経常利益	2,815	2,399
特別利益	—	—
特別損失	276	1,188
税引前当期純利益	2,539	1,211
法人税、住民税及び事業税	995	868
法人税等調整額	221	△ 320
当期純利益	1,322	663
前期繰越利益	1,647	1,757
当期末処分利益	2,970	2,421
(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。		
		(単位：百万円)
■ 利益処分	前事業年度 (2002年3月期)	当事業年度 (2003年3月期)
当期末処分利益	2,970	2,421
これを次の通り処分します。		
利益準備金	—	—
配当金	265	279
	旧株1株につき 75円	1株につき 15円
	新株1株につき 31.25円	
取締役賞与金	47	33
別途積立金	900	700
次期繰越利益	1,757	1,408

(注) 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

インフォメーション (2003年3月31日現在)

会社の概要

社名	株式会社テレビ東京 (TV TOKYO Corporation)
開局	1964年4月12日
呼出符号	JOTX-TV
出力	映像 50KW 音声 12.5KW
周波数	映像 217.25MHz 音声 221.75MHz
資本金	67億8,495万円
社員総数	759名

(注) 2003年6月25日付をもって、英文社名を
TV TOKYO Corporation に変更いたしました。

主要な事業所

本社・スタジオ (東京都 港区)
天王洲スタジオ (東京都 品川区)

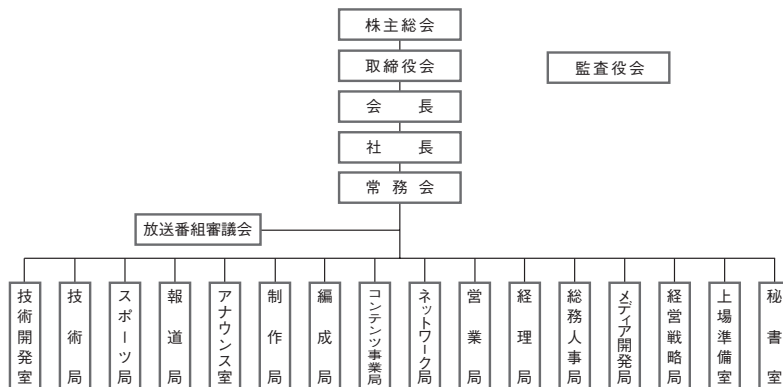
支社・支局

関西支社／名古屋支社／
ニューヨーク支局／ワシントン支局／ロンドン支局／
香港支局／北京支局／ソウル支局／モスクワ支局

役員 (2003年6月25日現在)

代表取締役会長		一木 豊
代表取締役社長		菅谷 定彦
常務取締役	秘書室、総務、人事、労務担当 兼関係会社担当補佐	森 廣成
常務取締役	経営戦略局、メディア開発局、関係会社担当	上田 克己
常務取締役	技術担当	金澤 敏男
常務取締役	上場準備室、経理担当	藤井 実
常務取締役	コンテンツ事業局担当	鈴木 民三
常務取締役	営業局、ネットワーク局担当	三澤 啓二
取締役	メディア開発局長	奥川 元
取締役	編成局、制作局、アナウンス室担当	犬飼 佳春
取締役	報道局、スポーツ局担当	熊村 剛幸
取締役	上場準備室長 兼経理局長	箕輪 新一
取締役	〈株式会社日本経済新聞社代表取締役社長〉	杉田 亮毅
取締役	〈株式会社日本経済新聞社常務取締役〉	竹谷 俊雄
常勤監査役		上野 寿隆
監査役		小川 大策
監査役	〈株式会社日本経済新聞社常務取締役〉	蘭 牟田 忠男
監査役	〈東京電力株式会社 顧問〉	荒木 浩

組織図 (2003年7月1日現在)



株式の状況

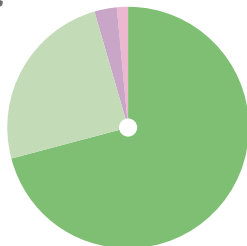
1 発行する株式の総数	74,580,000株
2 発行済株式数	18,645,000株
3 期末株主数	97名

大株主

株主名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
株式会社日本経済新聞社	6,881,950	36.91
新日本製鐵株式會社	1,036,150	5.56
日本生命保険相互會社	1,036,150	5.56
株式会社みずほ銀行	932,240	5.00
株式会社みずほコーポレート銀行	653,060	3.50
三井アセット信託銀行株式会社	590,000	3.17
株式会社UFJ銀行	533,600	2.86
東レ株式会社	518,050	2.78
株式会社日立製作所	518,050	2.78
株式会社毎日放送	518,050	2.78
三井物産株式会社	518,050	2.78
三菱商事株式会社	518,050	2.78

所有者別株式分布状況

■ その他の国内法人	13,212,050株 (70.86%)
■ 金融機関	4,593,950株 (24.64%)
■ 外国法人等	559,200株 (3.00%)
■ 個人その他	279,800株 (1.50%)



>>> テレビ東京グループ

テレビ東京グループは、テレビ東京と関係会社17社で構成されています。多メディア大競争時代の中で、放送事業の充実、発展を基本としながら、グループとしての成長を追求しています。

■ 連結子会社	議決権比率	主要な事業内容
株式会社テレビ東京ミュージック	100.00%	音楽著作権の管理
株式会社テレビ東京メディアネット	100.00%	放送番組の販売
株式会社テレビ東京コマースナル	70.00%	CM放送の準備
株式会社テレビ東京美術センター	100.00%	美術装置の企画・制作
株式会社テレビ東京照明	100.00%	番組用照明の企画・制作
株式会社テレビ東京システム	100.00%	コンピュータシステムの企画開発・管理
株式会社テレビ東京制作	100.00%	放送番組の企画・制作
株式会社プロント	100.00%	通信販売・広告代理業
株式会社セントフォー	100.00%	放送準備
株式会社テクノマックス	80.00%	放送番組の制作技術
株式会社テレビ東京建物	100.00%	スタジオ及び不動産の賃貸・管理
株式会社エー・ティー・エックス	21.50%	CS放送のアニメ専門チャンネル ※当社以外に当社100%子会社である株式会社テレビ東京メディアネットが18.56%所有しております。
TV TOKYO AMERICA, INC.	100.00%	米国における報道制作
■ 持分法適用会社		
テレビ東京ブロードバンド株式会社	37.62%	映像コンテンツの配信・提供
株式会社日経映像	33.33%	放送番組の企画・制作
株式会社アンテニュール	50.00%	グッズ販売
株式会社インタラクティブィ	21.25%	CS委託放送

>>> TXN ネットワーク

TXNネットワークは、テレビ東京をキー局として系列を組み、ネットワークを構築しています。6局で構成された効率的なネットワークは、全国視聴可能世帯の68%をカバーしています。



>>> 衛星放送提携会社

株式会社ビー・エス・ジャパン	14.00%	BS放送事業 ※当社以外にグループ内で右記のとおり所有しております。
		株式会社テレビ東京メディアネット 0.26%
		株式会社テレビ東京制作 0.26%
		株式会社テクノマックス 0.25%
株式会社日経シー・エヌ・ビー・シー	14.00%	CS放送事業

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
利益配当金	決算期における株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者にお支払いいたします。
中間配当金	取締役会の決議により、中間配当を実施する場合は、毎年9月30日における株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者にお支払いいたします。
基準日	毎年3月31日 そのほか必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(郵便物送付先) お問合せ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 03-5213-5213 (代表)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店



<http://www.tv-tokyo.co.jp/>

様々な情報を当社のホームページでもご覧になれます。
ぜひ一度アクセスしてください。

お問合せ先 ---

株式会社テレビ東京 総務部

〒105-8012 東京都港区虎ノ門 4-3-12

TEL. 03-3432-1212 (代)

